

資料1-2

本省様式1

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 長久手市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持改善事業において、車両減価償却費及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持改善事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等を分析の上記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
Nーバス (名鉄バス株式会社)	5路線8系統		A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。 令和3年4月1日にNーバスの路線見直しを実施した。	B 【令和4年度(R3.10~R4.09実績)】 利用者数:134,432人/年、1便当たり利用者数:9.7人/便 【令和5年度(R4.10~R5.09実績)】 利用者数:138,718人/年、1便当たり利用者数:10.0人/便 【目標:令和5年度】※第2次長久手市地域公共交通網形成計画における目標値 利用者数:271,000人/年、1便当たり利用者数:11.4人/便(未達成)	
中央線右回り (名鉄バス株式会社)	市役所~市役所	(R4年度事業二次評価内容) ・Nーバスの高齢者有料化についての継続した情報提供や、アンケート結果の分析から行動の変化の実態等の把握を進め、利用者にとってより良い公共交通になることを期待	A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。 令和3年4月1日のNーバスの路線見直しにより、中央循環線と西部循環線を一体にし、その一部を中央線として運行システムを引き継ぎ運行を続けている。	A 中央線は、人口の多い市西部を中心に、市南西部も走行する路線である。病院や大型商業施設付近のバス停からの乗降や、市南西部にある住宅街からの乗降が多く、通院や買い物など市西部及び南西部の市民の生活に必要な移動手段となっている。 令和4年4月から開始した65歳以上の運賃有料化及び新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の影響を考慮した目標値を設定したが、R3からR4で利用者数は増加しており、中央線ではそれらの影響を加味しても市中心部を運行する地域内路線として利用があったと考えられる。 (右回り) 【令和4年度(R3.10~R4.09実績)】 利用者数:23,827人/年、1便当たり利用者数:10.4人/便 【令和5年度(R4.10~R5.09実績)】 利用者数:25,854人/年、1便当たり利用者数:11.3人/便 【目標:令和5年度】※長久手市生活交通確保維持改善計画(令和5年度事業分)における目標値 利用者数:24,000人/年、1便当たり利用者数:10.4人/便(達成)	
中央線左回り (名鉄バス株式会社)	市役所~市役所	・地域間幹線系統である愛知医科大学病院線について、輸送量が低く推移しているため、関係者が連携して、新たな利用者獲得に向けた利用促進等を行うことを期待。	A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。 令和3年4月1日のNーバスの路線見直しにより、中央循環線と西部循環線を一体にし、その一部を中央線として運行システムを引き継ぎ運行を続けている。	A 【令和4年度(R3.10~R4.09実績)】 利用者数:21,739人/年、1便当たり利用者数:11.3人/便 【令和5年度(R4.10~R5.09実績)】 利用者数:22,895人/年、1便当たり利用者数:11.9人/便 【目標:令和5年度】※長久手市生活交通確保維持改善計画(令和5年度事業分)における目標値 利用者数:21,000人/年、1便当たり利用者数:10.8人/便(達成)	
西部線右回り (名鉄バス株式会社)	市役所~市役所	・地域公共交通計画策定に際して、地域間幹線とそれに接続する支線に対する役割分担を整理し、各路線の補完、充実を意識した計画検討を期待。	A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。 令和3年4月1日のNーバスの路線見直しにより、中央循環線と西部循環線を一体にし、その一部を西部線として運行システムを引き継ぎ運行を続けている。	A 西部線は、人口の多い市西部を走行する路線で、病院や大型商業施設近くのバス停からの乗降が多く、通院や買い物など市西部の市民の生活に必要な移動手段となっている。 令和4年4月から開始した65歳以上の運賃有料化及び新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の影響を考慮した目標値を設定したが、R3からR4で利用者数は増加しており、西部線ではそれらの影響を加味しても市中心部を運行する地域内路線として利用があったと考えられる。 (右回り) 【令和4年度(R3.10~R4.09実績)】 利用者数:22,579人/年、1便当たり利用者数:11.7人/便 【令和5年度(R4.10~R5.09実績)】 利用者数:22,888人/年、1便当たり利用者数:11.9人/便 【目標:令和5年度】※長久手市生活交通確保維持改善計画(令和5年度事業分)における目標値 利用者数:20,000人/年、1便当たり利用者数:10.3人/便(達成)	
西部線左回り (名鉄バス株式会社)	市役所~市役所	・移動ニーズの変化や公共交通に関する課題をR6年度以降の長久手市地域公共交通計画に反映するため、令和4年9月から10月に実施した市民アンケートの分析と合わせて、令和5年8月に市民ワークショップを実施し、実態把握に努めた。 ・各交通手段の役割分担を明確化したうえで、公共交通同士の乗り継ぎや利用促進などの検討を交通手段間で連携して実施する方向性を計画素案の中で示した。 ・Nーバスの乗降調査を令和5年度事業期間内に3回(R4.11、R5.3、R5.7)実施し、利用実態の把握に努めた。	A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。 令和3年4月1日のNーバスの路線見直しにより、中央循環線と西部循環線を一体にし、その一部を西部線として運行システムを引き継ぎ運行を続けている。	A 【令和4年度(R3.10~R4.09実績)】 利用者数:23,297人/年、1便当たり利用者数:10.2人/便 【令和5年度(R4.10~R5.09実績)】 利用者数:24,270人/年、1便当たり利用者数:10.6人/便 【目標:令和5年度】※長久手市生活交通確保維持改善計画(令和5年度事業分)における目標値 利用者数:22,000人/年、1便当たり利用者数:9.6人/便(達成)	
三ヶ峯線 (名鉄バス株式会社)	市役所~市役所		A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。 平成28年4月1日のNーバスの路線見直しにより、三ヶ峯線早朝便は廃止し、三ヶ峯線福祉の家発便は三ヶ峯線として運行システムを一体にした。 令和3年4月1日のNーバスの路線見直しにより、平休同一の運行本数から平日便、休日便として再編が行われ運行を続けている。	B 三ヶ峯線は、人口の少ない市東部を走行し、市南東部の交通不便地域となっている住宅街とリニモ駅や公共施設を結ぶ路線である。また、交通不便地域に住む小学生が、通学に利用するとともに、当該地域の住民にとって、病院や商業施設へ移動する手段として利用され、市南東部に住む市民の生活に必要な移動手段となっている。 令和4年4月から開始した65歳以上の運賃有料化及び新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の影響を考慮した目標値を設定したが、利用者数は減少し、目標値には達しない結果となった。 【令和4年度(R3.10~R4.09実績)】 利用者数:19,295人/年、1便当たり利用者数:11.5人/便 【令和5年度(R4.10~R5.09実績)】 利用者数:18,327人/年、1便当たり利用者数:10.9人/便 【目標:令和5年度】※長久手市生活交通確保維持改善計画(令和5年度事業分)における目標値 利用者数:19,000人/年、1便当たり利用者数:11.2人/便(未達成)	高齢者の運賃有料化に対して理解が得られるよう、情報提供を継続する。R4年度実施の市民アンケートおよびR5年度実施の市民ワークショップの結果を踏まえて、移動ニーズに適したNーバスの運行体系の見直しについて検討を進める。 合わせて、R5年度策定中の長久手市地域公共交通計画では、地域特性に応じた取組の方向性を示すことで、課題の改善を目指す。地域別の方向性として、市西部(中央線、西部線運行エリア)については、既存の公共交通網の利用促進に注力する。一方、市東部(三ヶ峯線運行エリア)については、公共交通ネットワーク改善の検討を重点的に取り組む。名鉄バス(愛知医科大学病院線運行事業者)と連携した利用促進や路線見直しの検討にも取り組みたい。